

令和6年度 第1回飯島町総合教育会議 会議録

- 1 開催日時 令和7年1月29日(水)
開会 午前10時30分 閉会 午前11時30分
- 2 開催場所 西庁舎 営農研修室
- 3 議 題
(1) 教育行政に関する懇談
(2) その他
- 4 出席又は欠席した構成員氏名
出席構成員
町 長 唐澤 隆
教 育 長 片桐 健
同 職 務 代 理 桃澤 宗夫
教 育 委 員 竹内 榮一
教 育 委 員 橋場 沙弓
教 育 委 員 川村 みゆき
- 5 町・教育委員会事務局職員の職氏名
副 町 長 宮下 寛
教 育 次 長 齋藤 鈴彦
こども室長 伊井島 伸也
子育て支援担当係長 座光寺 恵
生涯学習係長 丸山 浩隆
生涯学習担当幹 春日 有美
スポーツ担当係長 松下 いづみ
指 導 主 事 大野 俊浩
生涯学習係 大沢 容子
- 6 傍 聴 者 長野日報新聞社 勝村 誠之
- 7 議事の詳細 別紙のとおり

令和6年度 第1回飯島町総合教育会議

開 会

令和7年1月29日 午前10時30分

1 開会

齋藤教育次長
10:30~

皆さん改めましてこんにちは。これから令和6年度第1回飯島町総合教育会議を始めさせていただきます。進行を務めさせていただきます教育次長の齋藤です。本日の出席でございますが、お手元の資料のとおりです。なお、お席につきましてもこのレジュメの名簿の順でお座りいただいております。また、本日の会議につきましても、概ね一時間を目途に進めさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

それでは、開会に先立ちまして唐澤町長からご挨拶を申し上げます。

唐澤町長

改めまして、おはようございます。新任の川村委員にはよろしくお願いします。今日は、総合教育会議ということで飯島町の子供たちの教育関係をお話しします。後ほどの懇談会でもありますようにデジタル化もすごい勢いで進展しています。役場の業務もDXということで、私も学習しておりますけれど、私としては紙に書いて耳から入ってくる知識も大きいかなと思っておりますが、後ほど話したいと思っております。今子供たちの取り組みが非常に激しい動きの中で、飯島町の子供たちは、地域に出て色々な活動をしており、特に一昨年くらいからは、色々なイベントにも出てきており、地域で子供を育てるという環境が少しずつ整ってきたのかなと感じているところであります。そのことを踏まえまして、今後の教育などについて相談をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

齋藤教育次長

ありがとうございました。

それでは早速レジュメに沿って進めてまいりたいと思っております。

着座にて失礼いたします。資料3の総合教育会議についてでございます。1枚おめくりいただき、資料3をお願いいたします。飯島町総合教育会議の設置要綱でございます。第1条の1でございますが、平成27年に地方教育行政の組織および運営に関する法律に基づき、飯島町総合教育会議を設置しております。なおこの法律に基づいて全国全ての地方自治体でこの会議が設けられております。

それから第2条の任務でございます。第1号から第3号まででございます。町長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、飯島町の教育の課題や、目指す姿を共有し、一層の教育行政を推進するために行っております。

一行飛ばしまして、第4条の会議でございます。会議につきましても、町長が議長を務めることになっておりますので、これ以降、会議の進行につきましては

町長の方で進めさせていただきます。教育会議の要綱については以上でございます。

唐澤町長

それではお手元資料レジメの4協議事項、(1)教育行政に関する懇談をよろしくお願いします。いかがでしょうか？

桃澤代理

去年もお話したんですけど、児童数を年代別に列記した0歳児のところを見ていただきますと、子どもの数がいよいよ深刻な印象であります。1月2月3月にお生まれになる子供もいると思いますので、ギリギリになるかと思いますが、35名というのが義務教育のクラス生徒数を決める数字になっています。

全体の傾向としては、全国的な状況と一緒に、少子高齢化と人口減少は止められない状況に来ているんじゃないか。そんな中で去年もお話したんですが、統廃合を考えていく時期なのではないか。実は去年12月にある会で会った女性が、町長懇談会で「七久保小学校は維持します」とお話されたとお聞きしました。その方は結構教育の問題についても意識の高い方で、全体としては減少傾向にあるのだが町長さんが維持しますと、はっきり言われた。そんなこと言わしていいのかが。教育委員としてどう考えているんだと詰め寄られました。やはり5年後10年後、町の義務教育の形態とか姿っていうのはどうあるべきかしっかり検討して、こんな案がありますよという提案を示し、ビジョンを展開すべきだなとつくづく思いました。

町長ぜひ、5年後10年後の飯島町の義務教育の学校体制と、統廃合も示していただく時期に来ていると政治判断をお願いしたい。七久保小学校は、特殊な地位にありまして、昔の七久保村の状況を引き継いでいて、七久保の方は、七久保小学校に対する愛が非常に強いと思う。唐澤町長も5年後10年後、こんな案がありますよ。こんな方向で検討しています。というビジョンを展開していただき、現状を維持するのはいつまでなのか、お話していく時期に来ているんじゃないかと思っていまして、ぜひとも、どうあるべきかビジョンを作るため検討を開始すべきだと思います。

唐澤町長

去年の9月から、36の地区で懇談をしてきました。七久保は全地区で懇談しました。七久保で出るのは、七久保診療所の再開と小学校についての課題が挙がってきたところです。去年は辰野の川島小が閉校しましたし、中川の小中学一貫校が中学に作られました。本当に少子高齢化の中でそういった考えになってきたと思いますが、まずは子供さんを中心に学びをどういうふうに確保していくか、そこが一番重要なところで、それを最終的に考えて経済的な問題や人数が減ったらどうするかということを考えていきたいと思っています。

国の基準ですと、小学校は1クラス編成できない場合、中学校ですと2クラス編成できない場合には、そういった配慮になっています。飯田市では1クラス維持できない場合、統廃合を検討してみましようとする基準を作りました。小中一貫校とした場合には、学園という機構で運営していくとしました。飯島町としましてもそういった基準を定めて検討していきたいと思えます。

今年の出生者数ですが、年度でいくと38人です。去年よりは少し増えましたが、でも全体で40人を切っている状況です。七久保はあまり減っていないのですが、その他の地域の減少が激しいということで、その辺りも含めて、大勢で、みんなでわいわい学習するってということが重要なこともあります。

子供の学びの環境を考えながら、いつからそういったことを研究していくか基準を定めていきたいと思えます。ですから、今から統廃合をするとか、想像してつくるとかいうことではなくて、やはり基準を定めながら検討していく機会を定めることだと思えます。

桃澤代理

ランドセルを小学校1年生に配布するよりは、パソコンかタブレット端末を配った方が早いのではないかと話をしたことがあるんですが、あつという間にコロナ禍になり、それからパソコンを通じて子供さんと話をするという環境になり、タブレット端末が1人1台ずつ整備される時代に突入しましたが、子供たちにはそれに対応する能力がある。授業でもどんどん使う。教育委員会の学校訪問で参観したりするんですが、先生たちよりもこどもの方が早く使える能力がある。要するにその飯島町のネット環境と、それから配っているタブレット自体の能力が子供たちより遅れているんだと感じましたね。ぜひ更新の時に合わせていいものを整備していただくようお願いしたい。

唐澤町長

ICT教育関係は目覚ましく広がっているんですけど、一方で機械的な問題もあったり、電気、電池もないと動きませんし、ネット環境が太くないといけません。これから膨大なICTが町内で活用され時間が非常に長くなるのが懸念されています。基を太くしていくには、やはりお金をかけて整備しないとですが、そこはまだできてない状況です。

企業の皆さんが5年6年ぐらい前町内に来て、そういったネット環境で仕事をしたいと来られたんですが「飯島ではできない」と断られてしまいました。町としてもその辺をもきちんとしなければですが、そういった機械的な環境の問題もあると思えます。

もう一つは、タブレット教育だけがいいのかをもう一度考えていく必要があると思えます。一旦全部タブレット教育になったんですが、紙に戻っているんですね、それはなぜか、教育する環境もそうなんですが、色々な学びの深まりがない

と広まっていかない。自分たちもそうなのですが、色々検索しますけど検索して終わりなんです。それが積み重なっていかないと、学びの重層化ができないところがありまして、書くと考えが深まるんですけどそういったところがICT教育では検討していく必要があるんじゃないかなと、全く否定するわけじゃないですが両方とも併用しながらやっていく必要があるんです。頼るっていうことはやっぱり危険だなと自分は考えています。

若い皆さんは違うと思うんですけど、みんなで話し合いをしたり、議論したりしていく必要があると考えます。

桃澤代理

私もそう思いますけど授業をご覧になると、全くタブレットだけではない。教科書も使いながらノートもつけながら、ノートのつけ方も教えながら工夫して先生方はお選びになっている。スウェーデンでタブレットとかICTについて、そういう動きがあったからやめた方がいいんじゃないかというお気持ちはわかります。今の日本の教育指導要領は、合わせてやっていきましょう。上手に使いましょうと、その否定的な問題があるからタブレットの更新をちょっと遠慮するとか足踏みするとかいう問題にして欲しくないです。

高速なタブレットがあればあるほど、深い教育と合わせて可能である考え方だと思いますので、ぜひそこはネットの課題と、タブレットの能力が高いものに更新など両方やるべきだと私は思います。もちろん先生もずいぶん工夫されていて、議論もしますしノートの付け方もきっちり教えてあげています。そこは更新を躊躇する理由にならないようお願いしたい。

唐澤町長

後退するっていうことではありませんので、使い方はやはり考えないといけない時期だと思います。

宮下副町長

ネット環境は今調査をしてございます。ただうちはCEKのネットなんですよね。役場は一括で入っています。CEKの回線は、昔より太くなっているはずなんですけど、CEKに聞いてみないとどの辺の環境かっていうのはわかりません。

例えば、以前ですと設計書ですとか、図面や写真ですとか、そういうものが送れなかったんですよ。今は、どうなっているかなと思っているんですけど、最初の頃よりも回線も太くなっているはずなんですよね。それがすぐ対応できるか、ただCEKもお金はかかると思います。そこは仕方がないかなと思っています。調査した結果で、また対応させていただきたいと思っています。

タブレットは県基準で更新するつもりでいます。

桃澤代理

町おこしとか地方創生が進んでいて、在宅勤務も含めてその移住者が勤務を理由に移住する大きな条件の一つに、ネット環境の整備があり成功している例はもうご存知だと思いますが、最初は徳島など四国あたりです。今熱心に各自治体もやられていますので、別の観点からも人口増を狙う、産業部門からの要望もお考えに入れていただきたい。

唐澤町長

駒ヶ根までは回線が太いですよね。飯島には来ていないんでそれを改善していくと2000万ぐらいかかりますね。将来的には介入していかないとまずいと思っています。CEKも10ギガまで整いましたので早く良くなって、量的なものが送れるかどうかその辺を今調査しているということです。

川村委員

それは大事なことなんですけど、確かにタブレットがあると授業ではとても便利です。不登校の子が授業を見てそれで登校になるんだ。こういういいことがいっぱいあるんですけど、問題もあって、例えば授業中にチャットで生徒がやり取りをしてしまうとか、そこに書き込むなど問題が私の勤務校ではありました。それで、それを充実させるのと同時に、マナーやルール、人権など、そういうものを合わせてしっかり教えないと、何か遊びの方へ入ってしまうってこともありますので、その辺のところもしっかり押さえておいて、そこは学校でやるのか、町でやるのかわかりませんが、学校によってパソコンに得意な先生がいるところはどんどん使えるし、そうでないところはあまり使えないっていうその差も結構あるんですね。やはり問題はあります。マナーとか人権、友達をそれによっていじめないとかそういうようなことをしっかりやってほしいなと思います。

唐澤町長

今SNSでの選挙もそうなんですけど、一つの言葉で右か左かどちらかに寄ってしまうような傾向があって、多様な考え方っていうのが急激に縮こまってしまったと思います。本当に使いかたによっては、社会が分断されてしまうこともできますので使い方は非常に重要なところですよ。

竹内委員

学校給食費の無償化のことなんですけれども、若い人たちがそこに定住していきたいって思う中には、やはり子育て支援ということも必要になってきます。給食費が無償になっておれば、だいぶ経済的にも助かるなと思われるそういう子育て世代も多いかと思います。そういうことも踏まえておそらく町長さんは、令和5年11月の町長選挙のときに公約の一つとして学校給食費の無償化ということを取り上げたんだと思います。

安心して子育てできるまち作りをしていこうということだと思います。あれから1年ちょっと経つんですけど、今無償化に向けた検討はどの程度進捗してい

るのか、その状況をまずお聞きしたいと思います。

唐澤町長

給食費の無償化については、松川町が実施しておりまして、松川町は人口1万3,000人ぐらいですよね。飯島町と比べると5,000人ぐらい多いです。飯島町もぜひ無償化していきたいと思いますが、財源原資としては5,000万円ぐらい必要ですので、国の支援をいただきながらやっていきたいと思っていますが、できるだけ先行して飯島町も無償化に向けた取り組みをしていきたいと思っていますが、なかなか元になるのがないものですから大変申し訳ないですけど、今年の場合は、物価上昇もあり、給食費の単価が上がっているんですね。小学校は1食当たりが295円です。中学校は340円、その1割ぐらいの物価上昇を見据え、その分も町で負担し、保護者の皆さんの軽減を図っていききたいと思い、1月15日の臨時議会で予算のご決定をいただいたんです。それでも今、物価上昇が続いてまして3月補正で少しまた補填をしていかないと負担が上がってしまいますので3月の議会でも、若干物価上昇分を補助していただきたいと思います、今年の方については500万ほどの原資ですね。

来年はまた少し上乘せして、だんだんに負担軽減に向けた取り組みをしていきたいと思っていますけど、完全に無償化までは少し時間がかかりますが、できる限り財源を出しながら、本来であれば国がきちんとやっていただければと思うんですけど、国も給食費の無償化、高校の無償化が進んでいない状況ですけど、国にも要望しながら無償化について取組んでいきたいと思っています。

竹内委員

わかりました。その姿勢でいいかと思います。

やはり財源をどう確保するかっていうところが一番の課題になると思います。もちろんお金があればやりたいのは山々だとは思いますが、なかなか一気に無償化は難しいと思うので、どうしたら良い改善ができるのかというところが知恵の出どころ、工夫のしどころであると思います。

一挙に全部無償化するということは、なかなかハードルが高すぎてできないと思いますので、今言われたように、物価上昇分だけでも町の方で負担するというのも一つの方法だと思います。それが可能ならさらにもう一段階上げて、町が負担していくというようなことも考えてやっていただければいいかなと思います。

ただちょっと注意していただきたいなと思っているのが、質を下げたりしないようにしてほしいなということと、量も下げるといふこともしないようにしていただきたいなと思います。やはり給食の質というのも大事かと思っています。材料の問題もありますので、材料の値段を下げることによってかえって健康被害が生じてしまったというようなことがあってはいけないかと思っています。

また量も、ある程度確保していかないといけないと思います。育ち盛りの子供ですので、やはりある程度食べられてお腹がいっぱいになるというような量の確保も必要かと思います。そういったところにも留意しつつ、だんだんと給食費の無償化に向けて一步一步前進をしていっていただきたいなと思っております。

私の方からは以上です。

唐澤町長

やはり質の問題と安全な給食というのは非常に重要だと思います。今ピーファス問題があって、水道水だけでなく色々な野菜や魚からピーファスが確認されています。その辺がこれからの調査でどうなってくるかですけど、本当に安全安心な食の確保というのは厳しくなってくると思いますので、できるだけ地産地消で賄っていける仕組みを作っていきたいと思います。

有機ということ言われていますけれど、有機給食は結構ハードルが高く、隣の松川でも3分の1ぐらいしか有機を使っていない。調理する皆さんの洗浄も大変なんですね。その辺も含めてそのときに考えながら質の向上とハードルについて考えていきたいと思います。

竹内委員

了解しました。

続いてもう1つの無償化の話ですが保育園の保育料の無償化ということでございます。これにつきましても、町長選挙のときに公約の一つとして保育料の無償化が上がっております。その後、一応それなりにある程度実現してきているのかなと思っておりますが、現在の段階でどの程度の進捗状況なのか教えていただきたいと思っております。

唐澤町長

だいぶ保育園は無償化されていますけど、未満児の皆さんにつきましても、在宅でみられている方もいらっしゃいますので、在宅で子供さんを育てている方にもしっかりと支援していきますので、来年はそういったところを充実させたいと思います。未満児の保育士さんが足りなくて、なかなか希望に添えていないところもありますのでそういった皆さんに支援をもう少し厚くしていきたいと思っております。

竹内委員

はい、わかりました。そういうことでいいかと思っております。

無償化と軽減に向けてですね。順次工夫しながら町の方でも進めていっていただきたいと思っております。私の方からは以上でございます。

橋場委員

4番お願いします。病院の誘致についてです。先日議会だよりを見せていただいて、七久保診療所再開に向け飯島町出身で現在愛知県の方で活躍されている医

師と1月に懇談を行うとありましたが、進展があったら教えていただきたいです。

唐澤町長

実は、週末に懇談します。やっぱり医師不足はどこでも大変な状況で医師の偏在率この上伊那地域は、10万人あたり医師の人数が167人くらいなんですけど隣の下伊那では114人くらいで、南信州地域は非常に医師がいらっしやらない。そういう地域なのでみんな取り合いになっているんです。

宮田村の診療所の件があって、新しい先生が4月から開業しますけれど、本当に地域医療を担っている先生が少ないこと、これは医師の制度の問題もありますが、やはり本当に必要な整形外科、内科、小児科、眼科の意思が非常に少なく、学校でも色々な検査をするのに一般の先生がやっている状況で、医師の偏在が厳しいです。

昭和病院も新聞紙上で賑わせましたけれども、建設費が想定したより100億円ぐらい上がってしまい、この地域の皆さんで負担できない金額ですので、もう一度考えてみましょうというところです。昭和病院ですら、医師は昔30人いたんですけど今は27人しかいない。どんどん減ってきて去年は1人も先生が入っていない。先生方もどんどん高齢化しています。

それには都市の病院としっかり連携しながら、お医者さんも交流をしていく診療所を再開する時、先生に、週に二、三回でもいいんで診療していただければ、そういう仕組みからまず作って、常時いるのではなくそういった環境ができれば広がってくるんですね。

それから今、病院も赤字経営でコロナの交付金があって、5年ぐらいはみんな同じできたんですけれども、赤字経営の病院の再編というのはこれからもっと大きな課題になる。そういう中で、医師の確保をどういうふうにするか非常に近々の課題です。

そういう中では、やはり地域連携してからですのでそこら辺の取り組みも含めて進めていきたいと思います。すぐに先生に来ていただくのはかなり厳しい状況ですができるだけそういった連携をしながら進めていきたいと思います。

橋場委員

はい。ありがとうございました。

次に高校入学時の支援について、近くの高校に入学した保護者の方から言われたんですが、今1人1台のタブレットが当たり前の時代になって、令和4年度の入学生からは個人所有となっているということで、総額約7万8,000円かかります。それを3年間分割して払うということで年に2万6,000円で、1年生の入学時、教材費等含め13万円かかるということです。それが年子であったり、二つ違いで兄弟がいたりすると、それが倍になってしまう。高校入学時の支援にその

タブレットの購入の補助を検討していただけたらありがたいなと思います。

唐澤町長

小中学校全高校もタブレット教育になっていると思います。高校の場合県立ですので、できるだけ県でお願いしたいと要望していききたいと思います。

昨年、香川県は全額補助を取り消したところ、すごく批判を受けて、半分の補助に切り替わったんですけど、香川県はそういう補助があります。

町としては、高校生の皆さんに対してどのようにするか、やっぱり通学ですね、今までより通学距離が延びてしまいますので町としては通学の補助というような形で支援をしていくのがいいと考えます。

タブレットは、もちろんですけども、そこは県に整備していただいて、町としては通学を支援してはどうかと思います。まだ制度設計はできていませんし、中学校通学補助をしてほしいという意見もありまして、その辺も答えられるようにと思います。

それと、もう一つ再編でやはり気になることは、再編される高校はいいんですが再編されない松川高校もあります。松川は県立になってから30年、やはりこれからどうしていくか、どう特色ある高校にしていくか、そんな支援もしていかなければいけませんので総合的に取り組みながら、中学卒業してからの学びの環境の仕組みを作っています。

桃澤代理

高校の問題は、もちろんお金もかかるんですが99%の子が高校進学する時代にあって、仕組み上問題があるんじゃないかなと感じている。なぜかっていうと、実は昨年、飯島町の子供で自分の志を持って離れた所に進学した子の件がありました。そこで教育委員会の中でも議論になったんですが、小学校中学校の教育の中では誰1人取り残さず一生懸命やっている。しかもそれを支える仕組みの中に教育委員会が各市町村にある。

合同庁舎にあります県の南信教育事務所と毎月定例会を持ちながら意見を集約しているんですが、高校については、子供から見ましてポッと放り出されるかのように感じるんですね。

もう一つ、子供たちが町や地域を支え育てるんだっていう意味もあると思っていてね。そういうふうに住んだ子供たちが高校に入り中学の先生方の個人的な努力もあって、学校訪問したり、人づてに訪ねてもらったりするくらいのケアはあるけれどシームレスなケアっていうのは全くできない状態に置かれ、大事な心のケアとか、一番悩み多き時期っていうんですかね、親御さんにも相談できないようなところのケアが手薄な気がしてしょうがないんです。

県の教育委員会の所掌になりますが、町としても住民として高校生ぐらいまではもう少し手の届くケアが必要なんではと思います。

教育委員会は、高校再編の問題だったり入学試験の問題だったりまでは多少聞いてもらったり相談したりできるんですが、そこから先は何か仕組み作りが要るのかなと思いつつ、県に発言できる人は町長さんしかいないんです。何か義務教育の課題全体が高校にも及んでいるのではないかと思います。

唐澤町長

卒業しても課題のある皆さんは学校とさらにつながって状況を把握されています。高校と地域の繋がりが希薄になっていますのでその辺は自分の来年度の課題にも含まれておりますけれど、高校生の皆さんと懇談する機会を持っていると討論してみたいと思います。それともう一つは、高校生の皆さんの居場所です。文化館のような、勉強したり、いろいろ相談したり、親同士がたくさん話す、そんな場所ができていけたらいいなと考えています。それを来年度中には厳しいところがあるんですけど、県とも連携をとりながら進めたいと思います。

桃澤代理

飯島町の少子化の中で、このまま二つ小学校を維持するっていうのは、教育効率っていうのは確かにあるかもしれませんが、10人以下になるのはもう本当に集団教育って言えるのかという状況です。

飯島小学校と比べると地域との密着度は七久保が上ですし、子供の人数が少ないんで先生と子供との集中管理が非常にあって、子供たちが先生の話をよく聞き先生も気づかいしながらできる。羨ましいです。七久保の区域でなくても希望があれば、本郷から飯島小学校に来る距離より短く通えるから本郷から通わせてもらえないか検討内容を入れてもらってほしい。

唐澤町長

今提案のあったことの平準化を考えています。本郷上の段、本一くらいの皆さんは、もう保育園の段階でだんだん慣れながら七小に入るということもあるかなと思います。ただ、それでも人数が減ってきます。もう4年後には50人切っていますので方向性を考えていかなければと思います。

検討しながら基準を決めて、飯田市と同じように考えていきたいと思っています。

斎藤次長

ありがとうございました。大変貴重なご意見貴重な課題ができたと思いますので、今後の参考にさせていただきたいと思っております。

それでは以上をもちまして第1回目の飯島町総合教育会議を終わりにさせていただきます。

ありがとうございました。

以上の議事録は、教育委員会事務局教育次長 齋藤 鈴彦 の記載したものであるが、その内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

飯 島 町 長 唐澤 隆

飯 島 町 教 育 長 片 桐 健

同 職 務 代 理 柳澤宗夫

飯 島 町 教 育 委 員 竹内栄一

飯 島 町 教 育 委 員 橋 場 沙 乃

飯 島 町 教 育 委 員 川 村 みゆき